

第 3 回県立総合医療センター機能強化基本構想検討委員会の概要

- 1 開催日時 令和 5 年 2 月 1 7 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 1 5
- 2 場 所 山口県庁本館棟 4 階 共用第 2 会議室
- 3 出席者 委員 1 3 名
- 4 議 事

○ 医療機能強化の方向性について

【意見交換・質疑】

委員からの主な意見

【医療機能等】

- ・高度急性期・急性期医療への対応強化や診療センター化等による医療機能の強化は必要であり、大学としっかり連携して、取り組んでいただきたい。
- ・市長会・町村会の代表として、コロナ禍を踏まえた感染症医療や高度医療、災害・へき地医療等に対し、県全体の基幹病院として機能を強化していただくことは、要望に沿った形であり感謝する。
- ・身体合併症の精神疾患患者の受入強化として、精神病床を 1 0 床程度新設し、そのうち 1 ~ 2 床を保護室としてほしい。
- ・基幹災害拠点病院として災害対応力を強化するため、トリアージや治療が可能な施設を整備するほか、災害医療コーディネーターをはじめとする多職種との連携が図られるよう日頃からの取組を進めていただきたい。
- ・へき地医療におけるデジタル技術を活用した遠隔医療等の推進は重要であり、インターネット環境等を充実してほしい。
- ・即時に感染症対応へ移行可能な一般病棟の整備など十分な病床の確保や重症患者等への集中治療に対応する HCU 病床の拡充、付添親子入院等に配慮したゆとりある療養環境等の整備は重要である。

【患者サービスの向上】

- ・遠方から高度な医療を受けに来られる付添患者等への配慮を検討してほしい。

【人材確保等】

- ・低侵襲な手術支援ロボットの導入など、高度医療機器や最先端医療技術の導入は若手医師等確保の面でも重要である。
- ・へき地医療や感染症医療等の政策医療の人材育成について、大学と協議しながら連携して取り組んでほしい。
- ・高度専門医療人材の育成について、社会人の学び直しに係る需要にも対応できるよう、大学や看護協会等の関係団体との連携強化に努めてほしい。
- ・学生の県内定着も視野に入れた実習生の受入強化や、資格取得のための医療現場

での実習受入等、人材育成機能の強化を図ってほしい。

【地域医療連携】

- ・再入院の予防等を図るためにも入退院時の連携等は特に重要であり、地域の医療機関や薬局との積極的な情報共有・連携強化を図ってほしい。

【施設整備等】

- ・三次救急や第一種感染症指定医療機関に求められる高いアクセス性、大規模災害・パンデミック時の臨時的スペースの必要性などから広域防災広場の隣接エリアであれば、病院が持つ医療機能を最大限発揮でき、最適と考える。
- ・県の基幹病院として機能を担うには、高速道路など県内全域からのアクセス性が重要である。また、災害や感染症への対応として、まとまった土地が必要とされるなら広域防災広場と連携できれば双方の事業効果が増すと考える。
- ・患者の通院や職員の通勤等を考慮すると、近隣でアクセス性を確保できる場所がよく、また、医療機能の強化に必要な一団のまとまった土地の確保などを考慮すると、新たな県道沿いの広域防災広場隣接エリアは最適と考える。
- ・広域防災広場隣接エリアは、現センターの所在地に近く、患者にとってもなじみの場所であり、また、新たな県道設置によるアクセス性の向上や、広域防災広場と連携した災害医療活動が可能となるなど、センターの機能が十分に発揮できる条件を満たした適地と考える。
- ・移転候補地については、河川の氾濫等による地盤への影響や排水、活断層など、ハザードマップや災害の想定に対して、県として移転候補地のハザードを踏まえた防災対策をしっかりと講じ、災害医療等に支障が生じないようにしていただきたい。
- ・これまでも新たな医療機器導入等による増築を繰り返し、今後も新たな開発等があると思うが、人材育成・教育機能の強化に必要な施設整備は、最初の計画段階から施設内に組み込めるよう検討してほしい。

防府市補足説明（広域防災広場）

- ・防災拠点となる広域防災広場の整備を進めている。
- ・災害時に防災広場が有する役割をより強固なものにするため、県立総合医療センターが、新たな県道沿いの防災広場と同じ側、できれば隣接地に、一体的に整備されることが理想であると考えている。

検討委員会の意見の取りまとめ

- ・将来にわたり本県医療の中核的役割を果たすための、医療需要等を踏まえた高度専門医療や災害・感染症・へき地等の政策医療等について、医療機能強化の方向性を取りまとめた。
- ・整備場所について、防府市が整備を進めている広域防災広場と緊密に連携できる隣接エリアが望ましいとの意見を取りまとめた。